

## モバイルブロードバンドや スマート端末市場の発展を、 技術を通じて円滑に支えていく

通信システム・サービスのグローバルリーダーとして  
移動体、固定、およびコンバージドネットワークの技術をカバーする  
製品ポートフォリオをはじめ、コンサルティング、SI、デプロイメント、  
保守、管理などのプロフェッショナルサービスを提供している  
ノキア シーメンス ネットワークス。

同社のネットワークシステムズ・ビジネスユニット責任者の  
マルク・ルアンヌ氏に、ネットワークシステムを取り巻く市場動向や  
日本での展開など、最近の取組みについて伺った。



ノキア シーメンス ネットワークス株式会社  
ネットワークシステムズ・ビジネスユニット責任者  
NSN グローバル役員  
マルク・ルアンヌ氏

—はじめに、ルアンヌ様のこれまでの経歴についてお聞  
かせ下さい。

**マルク・ルアンヌ氏 (以下、MR)** 20年にわたり、  
米国、フランス、フィンランドの通信業界において、  
R&D、カスタマーオペレーション、プロダクトマネジ  
メントなどの数々の役職を務めてきました。競争の激  
しい複雑な商業・技術市場において、明確な戦略的リ  
ーダーシップを発揮し、ビジネスの成長と利益拡大に  
尽力してきました。

ノキア シーメンス ネットワーク (以下、NSN) には、  
2008年4月に入社し、昨年12月まで無線アクセスの  
責任者を務めました。無線アクセスビジネスのグロー  
バル責任者として、3Gでその地位を固め、重要なお客  
さまを獲得し、LTE (Long Term Evolution) 開発を  
推し進めて、商用LTEネットワーク投入サポートへと  
リードしました。これによりNSNは、2008年、商用ソ  
フトウェアで世界初のLTE互換性ハードウェアをお客  
さまに出荷しました。

NSNに入社する前は、アルカテル Wireless  
Business GroupのCOO (最高執行責任者) および社長  
などを歴任し、その後アルカテル・ルーセント

Convergence Business Groupの責任者を務めました。  
アルカテル以前は、MatraおよびNortel Matra  
CellularのエンジニアリングとR&DにおいてGSM  
(Global System for Mobile Communications) 製品の  
開発に従事。1980年にGSMを開発した初期チームの一  
員でした。

—ビジネスを進めていく上で、どのようなことに注力さ  
れていますか。

**MR** 今、2つの潮流があると思います。1つが、トラ  
フィックの増大です。今、世界には、様々なサービス  
やコンテンツを楽しむネットワークに「常時接続し  
ていたい」、「もっと新しいデバイスを使ってみたい」  
と感じている方がたくさんいると思います。そしても  
う1つが、我々が「スマートチャレンジ」と呼んでい  
るスマート端末ならではの課題です。これは、今まで  
とは違った形でアプリケーションが出てきたり、新た  
な要件などが台頭し、このような事柄がネットワーク  
に制約をかけるようになってきました。それらについ  
て、通信システムとサービスを担う我々が、どのよう  
にして解決していくのか。またチャレンジしていくの

か。この取組みが、今、第一の課題です。

——取組みを進めていく上でのポイントは何でしょうか。

**MR** 私はNSNのネットワークシステムズ・ビジネスユニットにおいて、全体を統括するとともに、設備機器類やソフトウェアの開発を担当しています。その取組みでは、「設備投資ならびに開発に関するコストをいかに抑えることができるか」に重点を置いています。加えて、シグナリングやIPのキャパシティ、アプリケーションの動作環境など、技術的な側面からスマート端末の市場をいかに円滑に展開することができるかを日々検討しています。

——NSNの優位性は、どのような部分でしょうか。

**MR** 増大するトラフィックに対応するキャパシティについて、ハードウェア／ソフトウェア／プロフェッショナルサービスの全てにおいて、理にかなった品質とコストで対応していることがあげられます。また、私が担当している領域では、モバイルブロードバンドがあげられます。3GPP、LTE、GSM等の取組みに対して積極的に投資を行っています。

——スマート端末に関連した取組みとして「Smart Labs」の設立を発表されましたが。

**MR** Smart Labsは、NSNの本社があるフィンランドのエスポーと米国テキサス州ダラスの2つのラボで運用されるスマート端末の利用環境改善に向けた取組みです。スマート端末をはじめ、モバイルアプリケーション、ネットワーク間で最適な相互動作を実現することに注力しながら、モバイルブロードバンドの利便性を高め、モバイルインターネットのエコシステムのステイクホルダーの相互協力を促進していきます。

——Smart Labsの設立にあたり、どのようなことを意識されたのでしょうか。

**MR** NSNが目指したのは、スマート端末が送受信するモバイルデータ量が急増する中、Smart Labsがリードする一種の業界協力を通じてイノベーションをテス

トすることです。複数の異なるアプリケーションや端末がモバイルネットワーク上でどのような性能を発揮できるかを把握することで、各種構成部品の最適化を図る方法を探していきます。特に、顧客データから何が分かるかを探索し、パーソナライズサービスの提供に役立てたいと思っています。

インターネットを利用する人々の期待に応えるためには、モバイルインターネットのエコシステムの構成要素であるアプリケーション、端末、ネットワークがスムーズに相互機能しなければなりません。エコシステムのあらゆるステイクホルダーが同じ目標に向かって一致協力することで、このことが初めて可能になります。NSNは、アプリケーション、端末、ネットワークが製造、市場投入、実装された最初の日からシームレスに相互機能するよう設計されるよう、Smart Labsを設立しました。Smart Labsはスマート端末利用者の体験に大きな影響を与えるであろう事柄に的を絞り、業界をリードするサービスプロバイダーや端末メーカー、アプリケーション開発者、システムインテグレーター等と協力して、構成要素の相互運用性を確保していきます。

——最後に、今後の展開についてお聞かせ下さい。

**MR** Smart Labsの設立とともに、NSNは既存の3Gおよび次世代LTEネットワークのためのモバイルブロードバンドエコシステムへの投資を引き続き行い、さらに開発を進めることで、モバイルインターネット分野におけるEnd to End能力を一層高めていきます。フィンランドのSmart Labは既に様々な開発に取り組んでいます。今年の夏にオープンするダラスのSmart Labでは、LTE技術に特化した取組みを進めていく予定です。

◆ノキア シーメンス ネットワークス株式会社

<http://www.nokiasiemensnetworks.com/jp>